

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4790100277		
法人名	株式会社ひやみかち小禄		
事業所名	グループホームひやみかち小禄		
所在地	沖縄県那覇市字小禄172-1		
自己評価作成日	平成 26 年 12 月 10 日	評価結果市町村受理日	平成27年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790100277-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790100277-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成27年 1月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

設立して4年になり入居者の方も重度化しましたが、重度になっても、その人らしく、その人のペースで寄り添うケアを実践しています。体調の良い日は車イスでのドライブや、ご家族参加の行事に力を入れています。子どもや孫達との遠足、年2回の大掃除は、ご家族からも喜ばれています。「どのような生活をしているのか」感じる事ができることでしょうか。大掃除の後の懇親会は孫達とのゲーム等で盛り上がりします。ご家族との信頼関係を大事にし、構築していく為にご家族との連絡ノートを活用しています。面会に来られた時はいつでも見て記入できるようにそれぞれの居室に用意してあります。平均介護度が4.2となったが、ドライブ、散歩は欠かせません。看護師を中心に入居者様の健康管理、訪問歯科、訪問診療の利用等医療との連携にも力を入れ医療的ケアの充実を図っている所です。家庭的な環境にこだわり、子連れで介護の現場で働ける環境作りを全職員で取り組んでいる

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の理念に掲げているように「家庭的な雰囲気での生活」にこだわり、家族との交流、連携が大事としている。年2回の大掃除や運営推進会議、行事等に全家族に声をかけ家族と共に実施している。食事は介助を必要とする方が多いが3食事業所で作り職員も一緒に食事している。看取りについても看護師を中心に勉強会や協力医療機関と連携して取り組んでいる。職員が働きやすい環境作りや職員の研修、講師(管理栄養士、薬剤師等)を招いての勉強会、職員間で共有して質の向上や日々のケアに繋げている。入居者の思い意向に直ぐ対応できるように職員体制を整えている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日：平成27年2月4日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の尊厳、家庭的な雰囲気づくり等職員採用の面接時には、事業所の理念をしっかりと伝えて理解してもらい採用している。介護の現場で子連れで働ける環境作りを全職員で取り組んでいる。介護の現場、ミーティング等で独自の理念を意識して管理者は職員に伝えている。	地域密着型サービスの意義をふまえ、開設時に全職員で作成した理念を継続している。日々のケアの中やミーティング等で理念を振り返り、職員は一人ひとりの尊厳を大切にし、家庭的な雰囲気にこだわり共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	自治会へ参加していることで行事への参加、関わりができた。小祿自治会年始めの行事「道ジュネー」は旗頭と獅子舞をひやみかちの駐車場で披露してもらい隣近所の方々にも喜ばれている。自治会の大掃除にも参加している。	近隣住民の来訪や中学生の職場体験、個人のハーモニカ演奏会、大学生のボランティアが定期的に訪れ交流している。年始の「道ジュネー」は、自治会の広報で見学者も増え、近隣住民より喜ばれている。重度化になり、朝の挨拶運動も中断している。事業所から地域に、地域の一人員としての関係作りが課題としている。	事業所が持っている力を活かして地域の一人員としての取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ認知症の人の理解を広げる為、介護職員自らキャラバンメイトの講座を受け、まず初めに事業者での講座を予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	エスケープした入居者の方を近隣の方に保護してもらい大事にいたらなかった。その方が運営推進会議へ参加することができた。事業所の事と認知症について理解してもらう事ができた。これからも地域の方に広く知ってもらう為にはどうしたら良いか格闘している所です。	運営推進会議は行政、入居者、家族、地域、知見者が参加し、年6回定期的に開催されている。入居者は記入もれで確認できない月もある。会議では事業所の状況や活動、事故、ヒヤリハット、外部評価の報告等、意見交換が行われている。ゲストを招いての勉強会も行われ、委員、職員間で共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の相談事には実直に対応してもらい、活動やケアのあり方、運営について報告相談している。市からの音楽会のチャリティーチケットで入居者の方が喜んでコンサートへ行く事ができた。	市担当者とは運営推進会議や県、市のグループホーム連絡会で情報交換している。管理者は、日頃より電話や窓口に出向き、事業所の相談等の助言や研修等の案内を頂いている。市の介護人材育成事業の委託を受け、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険な状態でないかぎり身体拘束は行っていない。やむおえず身体拘束を行なう場合は、月1回カンファレンスと、経過記録を行ないやらない方向へケアができるようにしている。転倒リスクが高い入居者の方には、ベットマット下に呼び出しチャイムを設置することですぐに駆けつけることができようになった。	前回の外部評価結果後、同意書も整備し、拘束しない為の検討会議を毎月実施して共通認識している。ベッド柵等の拘束はないが3名の方がセンサーを使用、家族には説明している。見守りの強化や床にマットを敷いての対応等で転倒が軽減している。職員は禁止の対象となる11の具体的な行為も理解している。	

沖縄県(グループホームひやみかち小禄)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護の研修に参加、運営推進会議、事業者の全体ミーティングで報告会を行なった。介護主任を初め職員の精神面でのメンテナンスに気を配り平常心でケアができるように心掛けている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見人の利用者がいたので勉強会を開き、後見人の方からいろいろ勉強させてもらいました。今後もこの経験を活かしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間を作ってもらい丁寧に説明している。重度になった時、看取りに関しては、事前指定書を記載してもらうことで緊急時の対応を含め家族への意識づけとなっている。ご家族には繰り返し確認を行なうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。 ご家族は運営推進会議へ気軽に参加できるように毎回参加を呼びかけているので意見が聞ける良い機会となっている。面会時には必ず笑顔であいさつを行いコミュニケーションをとり言い合い雰囲気作りを心掛けている。	日頃より入居者の声、思い、一言を大事にして反映できるようにしている。運営推進会議や年2回の大掃除後の全員での親睦会、面会時や連絡ノートを活用して、家族の意見等を聞く機会としている。家族から「行事等の連絡は早めに」や、特別食の要望があり対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングには理事が参加して積極的に意見を聞くようにしている。職員とのコミュニケーションを大事にしているのでできる事は積極的に行っている。例えば、研修は業務内でこなせるように職員にまかせている。	管理者は職員とのコミュニケーションを大事にする姿勢で、ミーティングや勤務後でも職員の意見等を聞いている。ペースト食の方が3名で、ミキサーの買い替えや外出時の携帯用イスや購入等の要望に反映している。職員に役割を持たせたり、働きやすい環境作りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労務管理士と委託契約している。給与水準、労働時間、雇用保険、社会保険に関して職員が不安のないようにしている。キャリアアップ助成金を利用して介護福祉士の資格取得を行なっている。那覇市介護人材育成事業の受け入れをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護主任、ケアマネを中心に新人職員の育成、職員間のコミュニケーションに力を入れている。研修には積極的に参加できるように工夫をしている。個別ケアへ力を入れているので入居者の声を拾ったら、職員のやりたい事ができるように全職員で実践している。やりがいがある。		

沖縄県(グループホームひやみかち小禄)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会へ加盟している。那覇市連絡会へ参加している。そこでの情報交換意見交換会をおこなっている。第1回小禄地区グループホーム合同敬老会を開催し、懇親会ではお互いのグループホームを良く知ることができた。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実調、居宅訪問を行なっている。その際現在のADL状況の確認や不安に思っていること、これからどのように過ごして行きたいかお話しさせてもらっている。必要があれば何度か足を運びコミュニケーションを取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	各一人ひとり連絡ノート作成しており、気づいた事感じた事要望等家族に記入してもらったり日頃の入居者の様子をスタッフが記入して関係づくりに努めている又、電話での情報交換も行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	口腔内の清潔、チェックの要望がご家族からあり訪問歯科の利用を行なっている。訪問歯科からマツサージの仕方、みがき方など伝授し必要な支援の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のペースにあわせ入居者中心になるように留意している。一緒に暮らす入居者同士が会話等楽しめる雰囲気作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡ノートを作成しており入居者の日々の様子発言等を記入してご家族へ伝えている。又、ご家族から、要望や気になる事など記載してもらい情報交換し共にご本人を支えていける様関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの近所の方や友人など家族からの知らせで来所くださった方々の名前の記入やホームでは時間、曜日関係なく、いつでも遊びにきて下さいと声かけし関係が途切れないように努めている。	本人や家族、地域の方、元ケアマネ等からの情報等で地域社会での関係性を把握している。友人や近所の方、元職場の方の来所を歓迎し、途切れないよう声かけている。産まれた場所や友人宅をドライブしながら確認している。家族と連絡しながら仏壇を拝めるよう支援している。	

沖縄県(グループホームひやみかち小祿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症であっても個性だと思い常に常に入居者の中に入りそれぞれの関係性が良くなるよう努めている席の配置やそれぞれの良い所を伝えている。うまの合うもの同士だと会話がなりたってなくても穏やかにすごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰された方は、その方のご家族へ行事の参加の声かけをし交流を継続している。看取りをされたご家族に子どもが生まれ、命日には子どもと一緒に尋ねて来ています。おばあちゃんに良く似たかわい子です。お互いがいろいろな話ができる関係性を築くことにつとめている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中から言葉、表情で思いを感じ取る努力をしている。ご本人より希望があれば尊重しすぐに取り組めるようにしている。またご家族、職員間で今「できる事」「やりたい事」はないかカンファレンスを持ち取り組んでいる。	日々の関わりの中で声かけを一番大事にしている。思いを訴えない入居者の場合は表情や動作、目の動きで把握に努め、職員で共有している。家に電話をかけたいとの利用者の意向に家族と連携して、1日に何度か電話をかける事により落ち着いた暮らしが出来る支援に取り組んでいる	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族より生活感や暮らし方等情報把握に努めている。最近の出来事等はご家族から聞く事で、ご本人、ご家族とのコミュニケーションをとることができる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の行動、排泄パターン、精神状態や心身の状態等の把握に努め、全職員が共有できるように行動、排泄チェック表へ記入し統一したケアができる。体制づくりに心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の様子や状態の変化を話し合い「今できる事」「やりたい事」注意が必要な事等を常に話し合いケアチェック表を使い日頃の様子を確認し必要に応じてカンファレンスを行なう。3ヶ月に1度はモニタリングを行いケアプランに反映している。	本人、家族が参加して担当者会議を開催し介護計画は作成されている。ケアチェック表を活用して日々のサービス内容実施状況を確認したり、気になる事や変化時にはカンファレンスで話し合い、計画に反映している。定期的の見直し、状態変化時の見直しもされている。モニタリングは3か月毎に実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日誌、個々のケアチェック表は毎日記入し個々に起こった事は、支援経過へできるだけ詳しく記録している。連絡ノートは、職員間やご家族からの連絡事項を記入し全職員が共有できるようにしている。ケアチェック表を使い日頃の様子、状態を把握しケアプランの見直しをしている		

沖縄県(グループホームひやみかち小禄)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	調理担当のパートがいる為ひとり一人との関わり、接することが、できる。また、平日の月～金3時間は看護師もいるため毎日の体調管理や体調の変化等すぐに相談できるため、入居者、ご家族職員全員が安心してケアに取り組むことができる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小禄地区の4カ所のグループホームが集まり小禄南公民館で合同敬老会を行なったが準備をする段階より他グループホームの方々との話し合いやご家族への協力願い、ボランティアへの呼びかけ等行い盛大に行なうことができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を4名の方が利用1か月に1回看護師が中心となってホームでの様子状態を報告している。他入居者は1か月に1回定期受診がありその都度必要に応じ、同席している。又、介護情報提供書ホームでの様子状態を記入しご家族より主治医へ確認コメント等をいただいている。	入居者や家族が希望するかかりつけ医となっている。定期受診や専門医の受診は、家族対応を基本としている。必要に応じて職員が同席する事もある。看護師を中心に介護情報提供書にて主治医と連携を図り適切な医療支援に繋げている。訪問診療や訪問歯科等医療機関と密に関係を結び支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	H25年4月より月～金3時間看護師が勤務している為日々の健康状態の確認がスムーズ介護職も安心してケアに努めることができる。体調変化がある場合はご家族と相談し病院受診を依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には看護師ケアマネが中心となりホームでの介護情報ADLの状況等を作成し伝えていいるご家族や病院の相談員と現在の状況、状態、退院のめど等連絡を取り合っている。退院時は、担当者会議を開催している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りケアについての事前指定書を記入してもらっているが、重度化になり看取りケアを行う時期に再度確認を行なっている。ご家族本人と相談し地域の協力や病院へ訪問診療の依頼をし看護師を中心に連携をとり取り組んでいる	入居者や家族へ契約時に重度化に伴う意思確認を行い、方針を説明し事前指定書を作成している。看護師を中心に医師と連携を図り、看取りケアを行う方針である。状態の変化に応じた繰返しの話し合いが行われている。職員は教育や研修等でケアの統一を図り、昨年も看取りも実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時にそなえ個々の連絡先既往歴現在服用している薬等を見直し職員がすぐに確認できるようにファイルにしている。急変、緊急時にそなえて看護師の指導助言を受けている。ヒヤリハット医療事故が起きた場合対応策を話し合い全職員に周知、実施している。		

沖縄県(グループホームひやみかち小禄)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成している。地域への声かけが行い災害時の協力依頼をしているが火災時の避難訓練の参加は厳しい状況であるので日曜、祭日に訓練を計画したりと呼びかけや参加できる体制作りを検討中である。	夜間を想定した自主避難訓練を1回実施しているが地域住民の参加がなかった。発電機等の備品や1日分の食料の備蓄がある。	年2回消防署に届出を提出し、昼夜を想定した避難訓練の実施が望まれる。地域住民との協力体制や3日分の食料の準備に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。声かけ、会話等は必ず同じ目線でしっかり目を見て対応している入居者の個人情報や健康状態等をついやり取りする事があるので職員ひとり一人が意識することと職員同士注意し合う事に努めている。	入室やケアを行う前には、必ず入居者へ確認をし了解を得て行っている。職員間で入居者の健康状態等について連絡する際には他の方に聞こえないように話すよう心掛けているが、気になる声の大きさ等があった場合には職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか思いを訴えない入居者も増えているが心の声をきけるようにしたい。必ず入居者へ意思の確認と何をすることも声かけを行なう。認知症で解らなくなっているからこそ必要である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどう過ごしたいかわからない事が多いので話題を提供して聞き出したり「～したい」の声を聞き、できるだけひきだせるように努力している。眠れない時はホットミルクやテレビを見たり、できるだけ対応を心掛けている。朝どうしても起きれない時は朝食をずらす等している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症の為わからなくなったとしても、無理意地はせず、できるだけご本人がしてほしい事に気付けるよう関わりを大事にしている。ご家族からの情報もとても参考にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみな物になるようひとり一人の好みや食べる力を活かしながら工夫をしている。例として一口大のおにぎりしたらお箸で上手に頂いている方もいる。つまんで食べる方もいるので少し大きめの一口大のおにぎりにしている。テーブル拭きができる方にはおしつけでなく気持ち良くできるように声かけをしている。	職員は入居者へ食べたいメニューを聞いて一緒に買い出しに出掛け、3食事業所で調理を行っている。2人の調理担当者が交替で食事作りを行い、全員同じ食事を一緒に音楽を聴きながら頂いている。特別食を希望する方へは、家族や医師と相談しデリバリーを利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎日チェックし把握している。ご本人の嗜好もできるだけ取り入れ食欲のない時には好きな物がたべられるようにしている。いつでもおいしい水が飲めるように飲用水を設置してあり積極的に飲ますようにしている。		

沖縄県(グループホームひやみかち小祿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用しているので口臭の改善や口腔ケアの勉強会ができた。重度の方の歯磨きの仕方、口の中を拭き取る事ができ口の中の状態が良い環境になってきた。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して可能なかぎりトイレで用を促す支援を行なっている。排泄パターンが把握できトイレ誘導をうまく行なっている。重度の方も綿パンツで対応できるようにしている。	排泄チェック表を活用しトイレ誘導する事でトイレで排泄出来るケアに取り組んでいる。食物繊維の多い食材等の利用や、医師と薬の相談をしスムーズに排泄出来るよう支援を行っている。本人に合ったパット類を選択する事により家族の経済的負担も軽減出来た。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し食べ物は柔らかく調理し食物繊維を含む根菜類を取り入る工夫をしている。水分補給をしやすいように飲みやすいスポーツ飲料やゼリー等に行っている。運動への働きかけ、散歩、ドライブを積極的に取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日は特に決めておらず入浴チェック表で確認をしてご本人に入浴を促している。入浴を拒む方に関しては、声かけやチームプレイ等対応の工夫をして決して強制はしないようにしている	入居者の希望で好きな時間にいつでも個浴のシャワー浴が出来る。本人に着替えを選んで頂いたり、どちらにするか確認している。温度調整がされた浴室前の洗面台付きの脱衣所で着替えを行い、好みのローション等を使う方もいる。同性介助が出来ない場合には、本人や家族に確認している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状態を行動・排泄チェック表、職員からの申し送り確認を行なう前夜不眠の状態の時は昼夜逆転にならないように日中の活動や仮眠を促している。リクライニングできるイスでゆったりとくつろいでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の管理を行い内服は全職員で行なっている。介護職にも解り易いように薬の説明書がいつでも確認できるように掲示してある。薬に関しての説明、指導、助言があるでもできる体制を取っている。小祿薬局と連携とり相談ができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望を確認し、気分転換を兼ねドライブや買い物に参加している。歌の好きな方と一緒にいつでもカラオケをしたり、良く聞かれていた曲を聞けるようにしている。できる事を見つけて、押し付けずご本人の話聞きながら役割を決め洗濯物たたみ買い物荷物持ち等取り組んでいる		

沖縄県(グループホームひやみかち小祿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を聞き毎日のドライブ、買い物へ外出できるようにしている。普段行けない様な場所でもご本人の希望と家族と話を聞き計画をたて全員で参加できるように取り組んでいる自治会の祭りにも地域の人たちと話し合いながら定期的に参加している。	入居者が出来る限り戸外へ出て、気分転換が出来るよう職員を配置しリフト車を用意している。ドライブ中にてんぶらが食べたいとの希望があり奥武島まで出掛ける等直ぐに対応出来る体制になっている。家族も一緒に月1回外食をしたり、記念公園や花見に出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の気持ちを聞きご家族へ相談をして小遣いを所持している。夜間にお金がある事を確認してもすぐに見つからない場合取られたと妄想するされたりする。小遣いで好きな物を購入されるととても喜ばれご家族へ感謝している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談して本人の希望があれば電話をしている。その方は誇大妄想で何度も電話をされるがご家族は良く話しを聞いていただけためうまくやり取りができています。各居室へ連絡帳を置き家族とのやり取りをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は広くて入居者と一緒に料理が楽しめるようにしてある。リビングは窓を大きくして明るく過ごせるようにしてある。トイレ、玄関は芳香剤を使用してやさしい香りがするようになっている。	対面式キッチンからは料理をする時の湯気や香りが感じられる。居間に続くテラスでバーベキューを楽しんだりお茶をしながら新都心のビルを眺める事が出来る。トイレは居間から離れた左右奥に2か所あり臭い等気にならずプライバシーが保てる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを2カ所設置。多くの人が集まり会話を楽しめるようにしてある。リクライニング式のイスが2台ありリビングでもゆったりくつろげるようにしてあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族と相談して馴染みの音楽などをもってきてもらい、聞いてもらったり、職員と一緒に聞いて踊ったりしています。孫が書いた絵や写真が飾られています。	玄関を挟んで左右に4室と5室の洋室があり、ベッドとダンスが設置されている。壁には家族の写真や絵画が飾られている。ソファを持ち込んで面会に来た家族とおしゃべりをしたり、以前収集したロックミュージックのCDで目覚める方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっている。居室のドアは全部引き戸にして開け閉めが容易にできる 廊下、トイレには手すりを設置してある。		